

霞ヶ関キャピタル株式会社

中期経営計画(2025年8月期～2029年8月期)

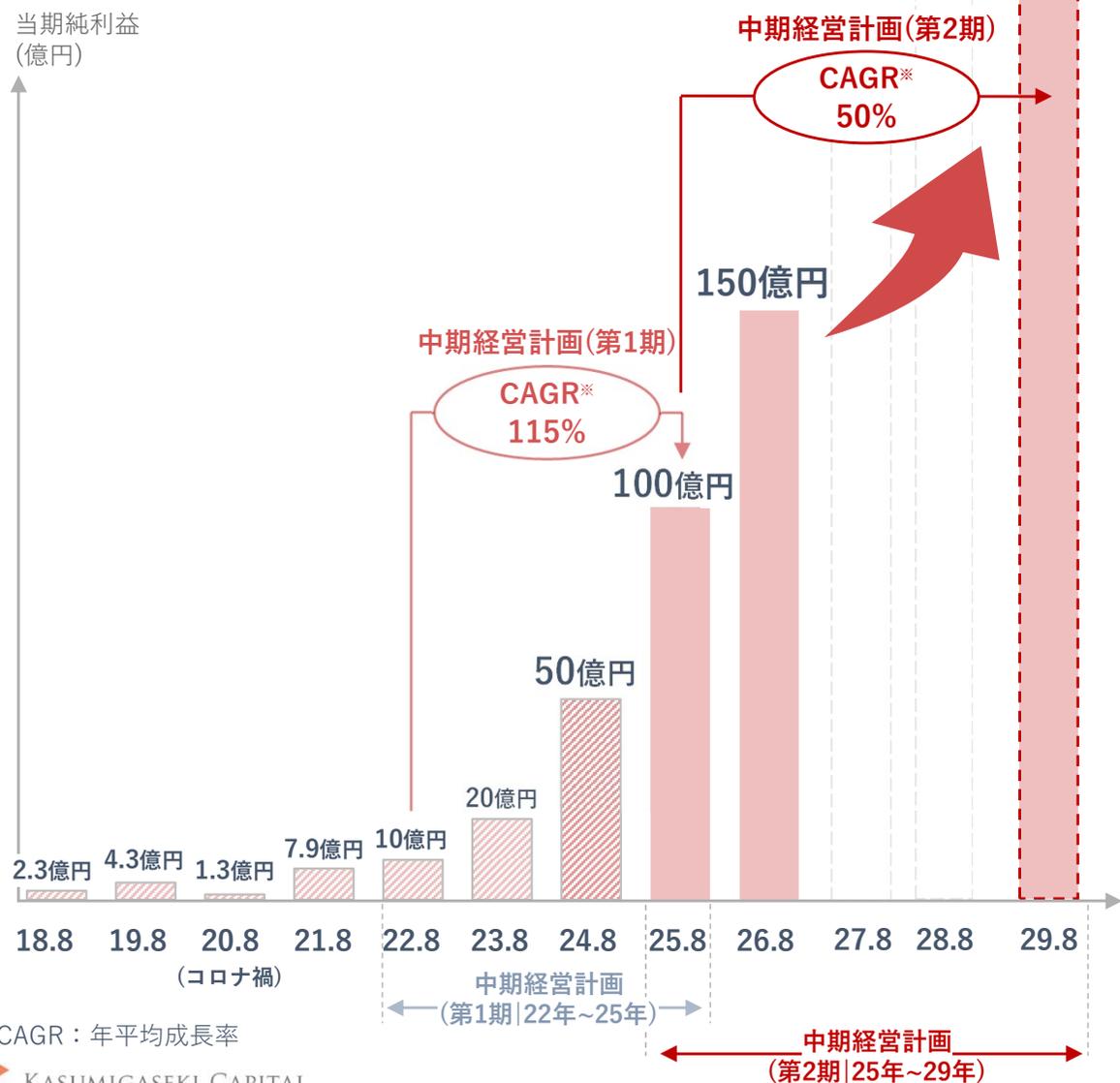
2024年10月2日

霞ヶ関キャピタル株式会社

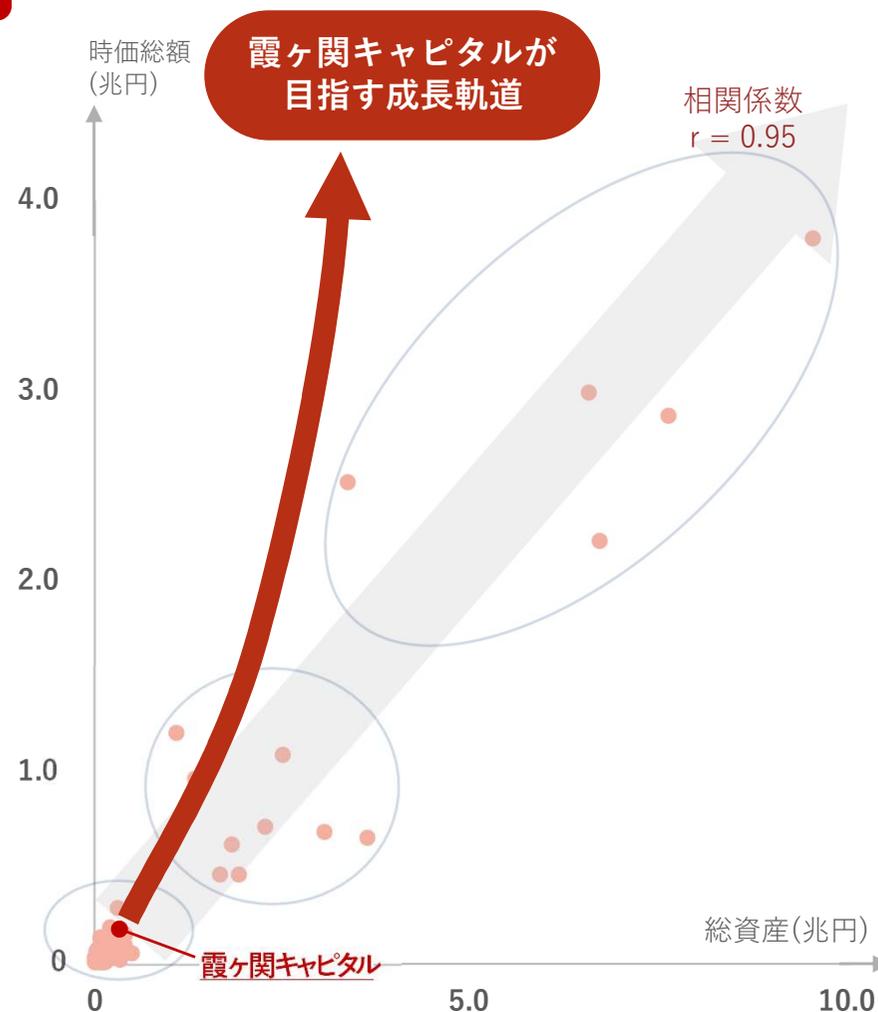
東証プライム（証券コード：3498）

[第2期中期経営計画策定] 当期純利益 (25年8月期~29年8月期)

当期純利益の実績・見通し



総資産・時価総額*の業界マップ

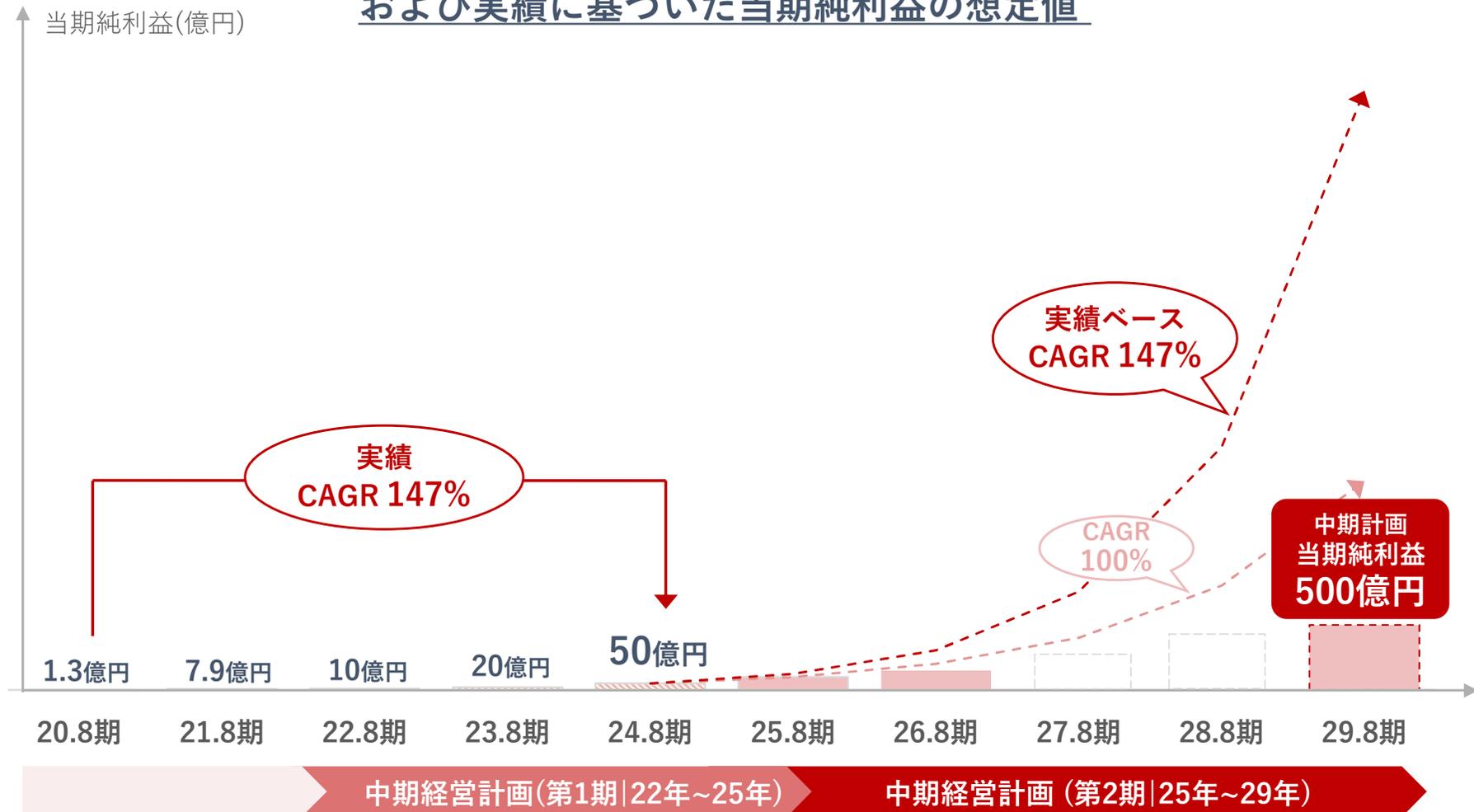


*出所: 日本取引所で不動産業に区分される企業の有価証券報告書/時価総額 (24.9.24時点) をもとに当社作成

[第2期中期経営計画策定] 当期純利益（20年8月期～29年8月期）

直近5年(20年8月期～24年8月期)の当期純利益の年平均成長率は147%

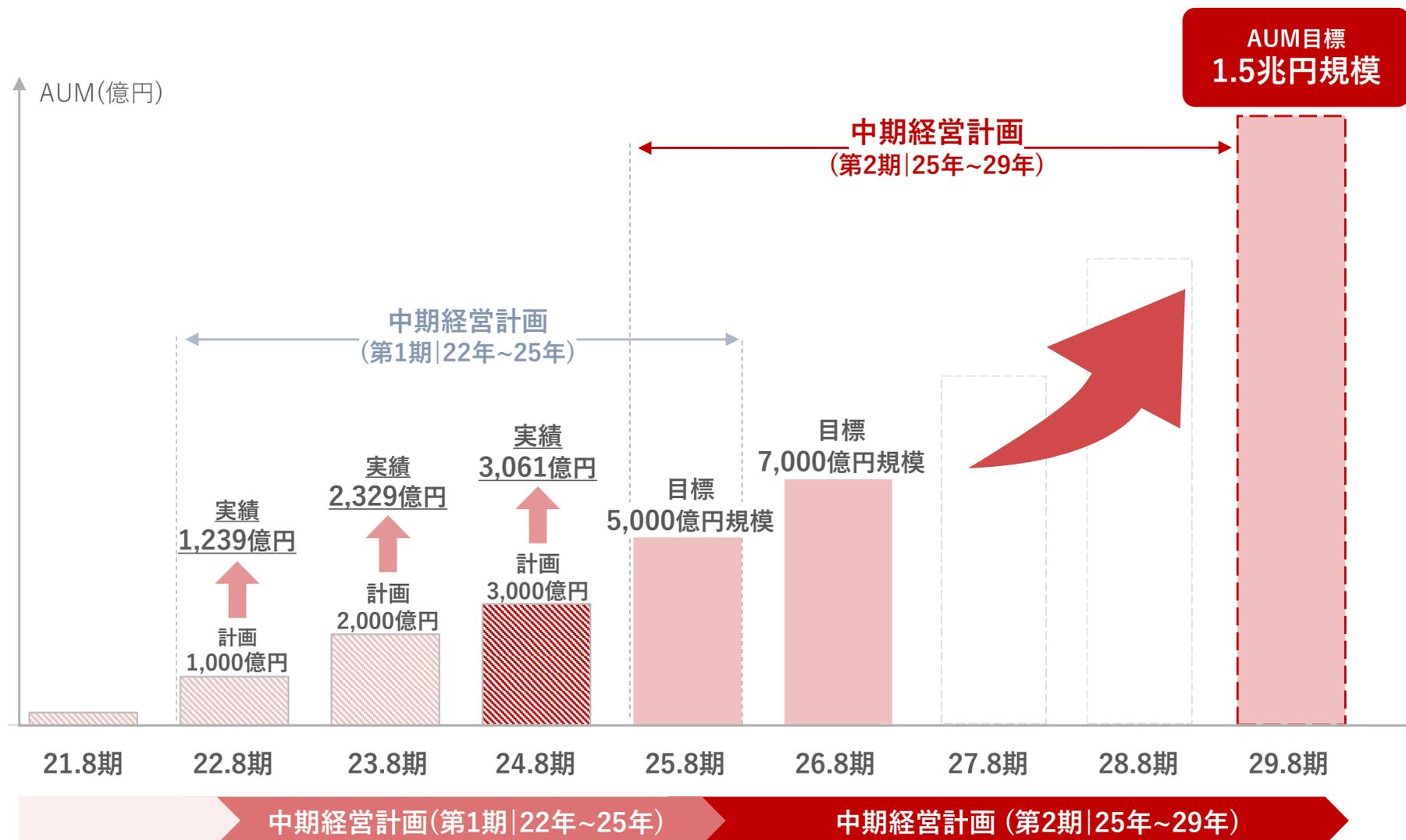
当期純利益の実績・見通し、
および実績に基づいた当期純利益の想定値*



*24.8期の当期純利益実績値に各CAGR（年平均成長率）を乗じて試算した想定値

[第2期中期経営計画策定] AUM (25年8月期~29年8月期)

22年8月期~24年8月期のAUMは中期経営計画を達成
事業の多角化・事業規模の大型化により29年8月期はAUM1.5兆円を目指す

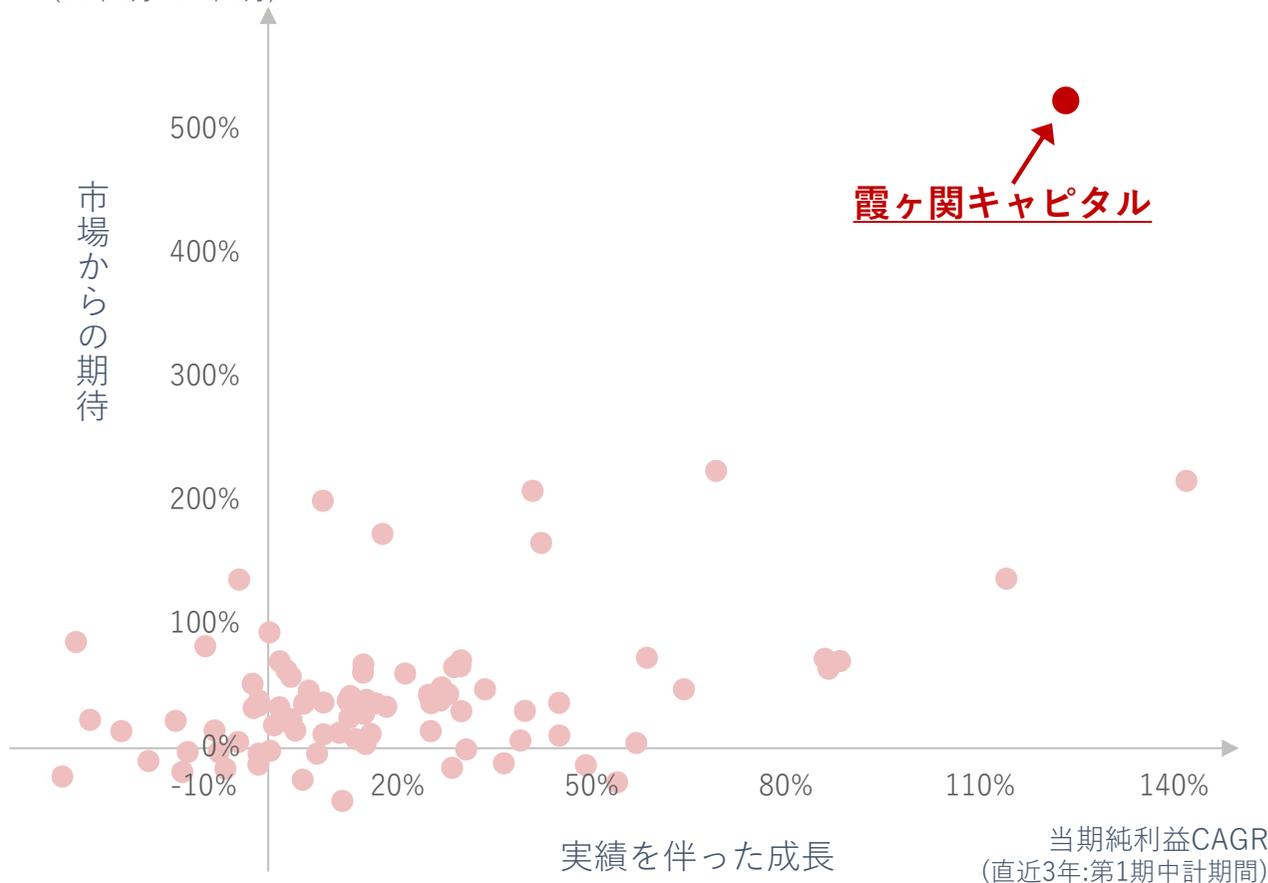


ビジネスモデル①：高成長を可能とするビジネスモデル

当期純利益の高い成長に伴い
時価総額の成長率も業界内で高い水準に位置している

不動産業界の企業マップ
(時価総額増減率 × 当期純利益の年平均成長率*)

時価総額増減率
(22年8月~24年9月)



■ 高成長率の要因

金融 × 不動産

金融・不動産出身の
高度人材

高回転
ビジネスモデル

高回転の
高効率型事業モデル

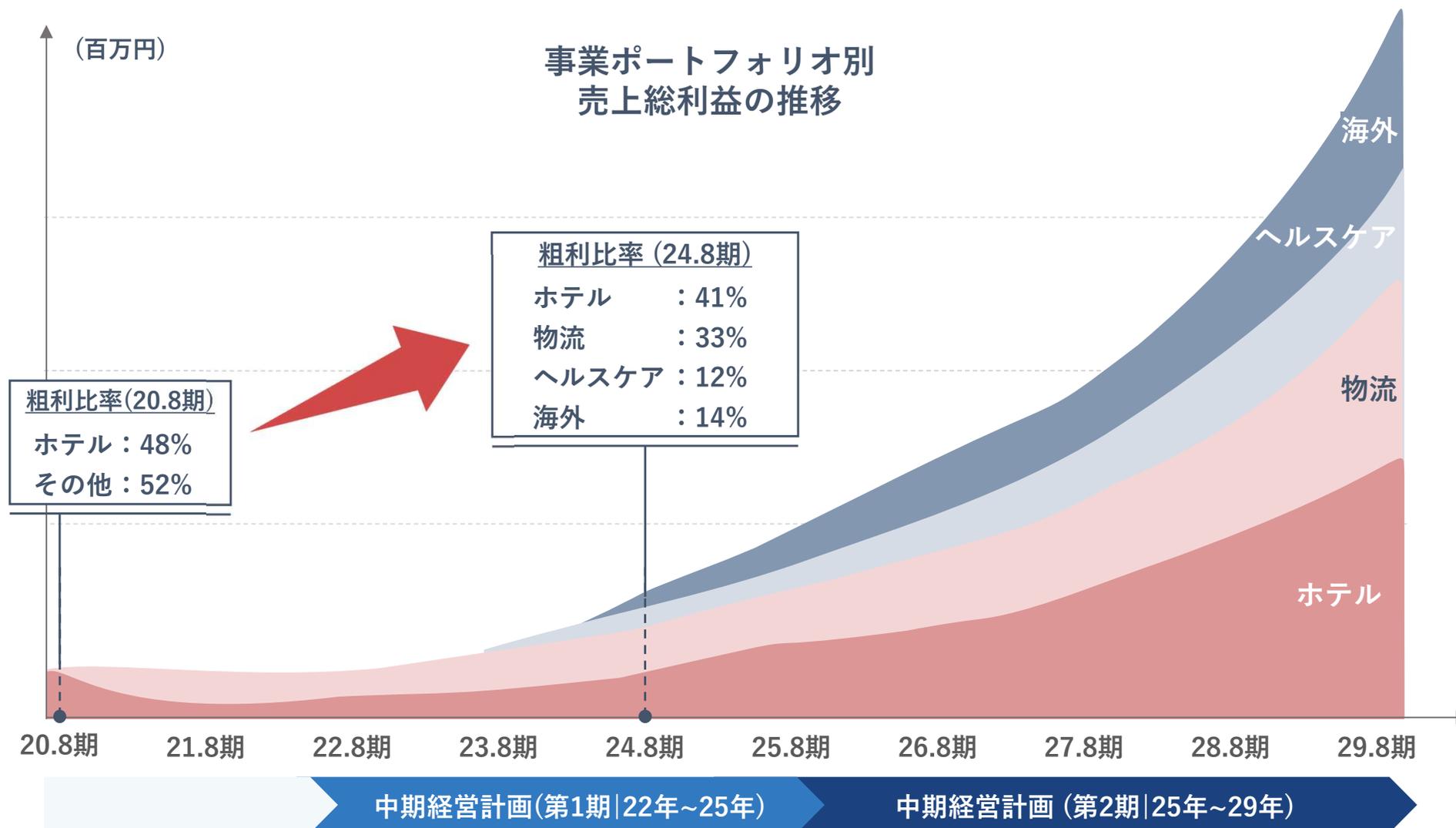
多角化 × 多層化

事業の多角化、
収益の多層化

*出所：日本取引所で不動産業に区分される企業の有価証券報告書/時価総額（22.8.27、24.9.24時点）をもとに当社作成

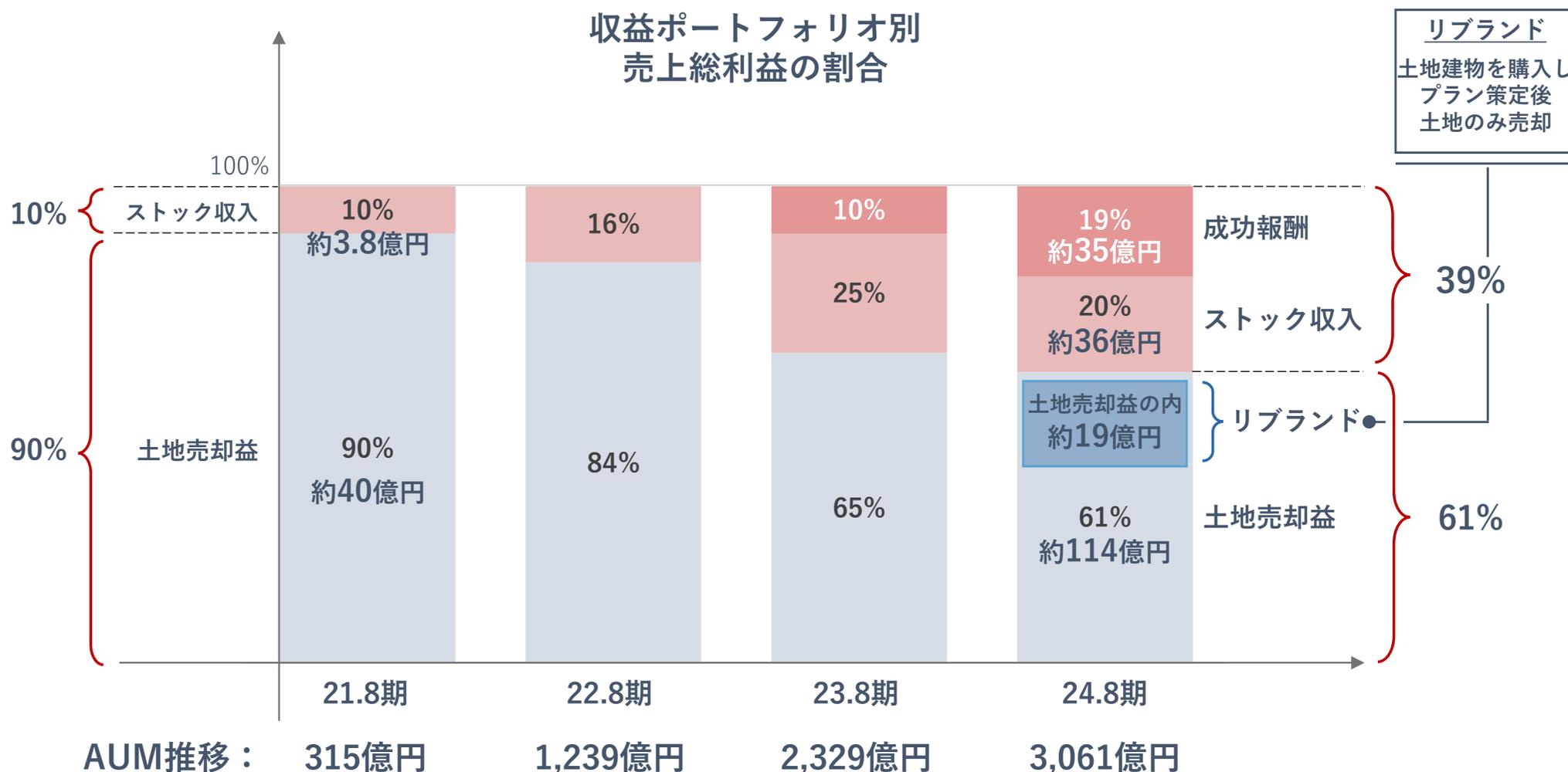
ビジネスモデル②：事業ポートフォリオの多角化

事業ポートフォリオは市場環境・市場課題に合わせて多角的に推移
売上総利益率は各事業ともに25~35%程度



ビジネスモデル③：収益ポートフォリオの多層化

収益ポートフォリオは事業成長に伴い多層的に推移
 今後も成功報酬・ストック収入が積み上がる見通し



ビジネスモデル④：事業・収益の深化



AI Labの活用イメージ

ホテル事業



BASE LAYER HOTEL

AIホテル運用管理
インサイト

- AIを活用しリアルタイムなデータ分析や自動レポートの生成、運営状況の把握や金融投資家向けの報告の効率化が可能

AIトリップ
コンシェルジュ

- 多言語対応や宿泊者のニーズに基づいたパーソナライズ観光案内などを提供し、オペレーション効率と顧客満足度を向上

物流事業



LOGI FLAG

ビッグデータ駆動型
ダイナミックプライシング

- 販売データや季節変動から需要に応じた価格を設定、また在庫状況や顧客セグメントに応じた最適な価格戦略を展開

AIサプライチェーン
マネジメント

- リアルタイムデータと予測分析に基づいた在庫管理・物流プロセスの最適化、潜在リスクの早期察知

海外事業



不動産査定システム

- 市場価格を精度高く算出し中古物件の購入判断を支援。また、割安な物件を自動検出し投資効率を最大化

AI Lab

AIを活用し既存事業の
深化を主目的とした
AI Labを設立

免責事項

本資料は、業績見通し等の将来の予測に関する記述が含まれています。こうした記述は、本資料の作成時点で入手可能な情報および当社が合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、将来の業績を保証するものではありません。

実際の業績等は、経済情勢、市場動向、経営環境の変化などの要因により、本資料における予測と異なる可能性があることをご承知おきください。

本資料の業績に関する記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。そのため内訳の計が合計と一致しない場合があります。

本資料の内容については細心の注意を払っておりますが、第三者機関の情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。ご了承ください。

本資料は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。